

 AUTOBACS
GPR
KARTING SERIES
2025

SUZUKA ROUND RACE REPORT



2025年 全日本カート選手権 OK部門 第1戦・第2戦

2025年 ジュニアカート選手権 ジュニア部門 第1戦・第2戦

2025年 ジュニアカート選手権 ジュニアカデット部門 第1戦・第2戦

2025年 Rok CUP JAPAN GPR RokSHIFTER 第1戦・第2戦



2025年5月10日～11日
鈴鹿サーキット 南コース



OK Class

『第1戦:酒井仁が13番手からの逆転で優勝!』

17台のエントリーを集めたOKクラス。継続参戦組、ルーキー等々多種多様な選手が集結した。1組で行われたタイムトライアルでは、2年目の酒井龍太郎(ミツサダPWG RACING)がトップタイムをマークし、第1戦のポールポジションを獲得。2番手にはルーキーの金子准也(YAMAHA MOTOR Formula Blue)が続く。

決勝では、金子がスタートに失敗し大きく遅れる一方、順当なスタートでトップを守った酒井。オープニングラップで酒井も大きく順位を落としてしまう。やや混乱のあるオープニングラップとなった中、トップで戻ってきたのは3番手スタートだった中井悠斗(TEAMEMATY)、それを松井海翔(Team EMATY)が追うが、3番手には13番手スタートだった昨年のランキング2位酒井仁(KF MOTORSPORTS)が急浮上し、トップ2台に迫っていく。酒井仁は3周目の3コーナーで早くもトップを奪うと、今度は中井らを引き離しトップのポジションを盤石なものとしていく。中盤には約1秒のリードを作り、そのまま逃げ切ってチェッカー。大逆転で開幕戦を制した。2位には中井、3位は松井が入った。

優勝ドライバー:酒井 仁 (No.2 KF MOTORSPORT)

「13番手スタートでどうしようかと思っていましたが、前が荒れたレースとなって追いつくことができ、前に出られて良かったです。後ろとの距離を気にしすぎてしまったところありましたが、落ち着いて走れたと思います。」

『第2戦:接戦を制した酒井仁が2連勝!』

第2戦のPPは第1戦でファステストラップを記録した酒井龍太郎。2番手に開幕戦を制した酒井仁が並ぶ。スタートでは加速よく伸びた酒井仁がホールショット。2番手に酒井龍太郎が続くが、その後方に6番手スタートだった皆木駿輔(DragoCORSE)が迫っていき、2周目の3コーナーで2番手を奪う。その後、皆木はトップの酒井仁にも接近し、両者はテールtoノーズでマッチレースとなる。逃げる酒井は、皆木のプレッシャーを感じながらも、要所要所では仕掛ける隙を与えずに周回を重ねていく。皆木も、酒井仁の直後には迫り、あと一歩で仕掛けられるかと思われたが、なかなか飛び込むスキが無い、緊迫したマッチレースが終盤まで続いたものの、最後までトップをキープした酒井仁が僅差で逃げ切り開幕2連勝を獲得。皆木2位、3位は中井悠斗となった。

優勝ドライバー:酒井 仁 (No.2 KF MOTORSPORT)

「途中、後ろから迫ってきて焦ってしまうところもありました。ペースがきつくて、1回抜かれたら抜き返せないと思ったので、ライン取りなど考えました。次も勝てるように頑張ります。」



Junior Class

『第1戦:坂野太絃がポールtoウィンで優勝!』

13台が参加したジュニアクラス。第1戦のPPを獲得したのは坂野太絃(Peak Performer Racing)。坂野は、鈴鹿で開催されているMAXチャンプでも連勝を飾るなど、この春好調な選手だ。2番手には北中一季(HIROTEx RACING with IMPUL)、3番手に島津舞央(ERS with SACCES)が続く。

第1戦の決勝では、坂野が好スタートを見せ、それを北中、島津らが追う展開となる。しかし、好調の坂野は後続を突き放すようにペースを保ち、徐々にリードを広げていく。その後方では北中と島津が2番手争いを展開。これによりペースが上がらないことも、坂野の独走を助ける結果となった。終盤には2秒以上のリードとした坂野は、そのまま独走でチェッカー。好調をそのままに開幕戦優勝を果たした。2位にはレディースドライバーの島津、3位北中となった。

優勝ドライバー:坂野 太絃 (No.88 Peak Performer Racing)

「クルマの動きがよくて後ろも離れたし良かった。スタートが決まってからは余裕を持って走ることができました。」

『第2戦:坂野太絃が連勝をマーク!』

第2戦PPIは島津。島津はスタートも決めホールショットを獲得する。

その後方に北中、今村昂星(Vitec Racing)が続き、坂野は5番手でオープニングラップを終える。しかし、そこからポジションを挽回していった坂野は、7周目にはトップに浮上し集団を引っ張っていく。2番手には今村が続き、3番手にフィリピンから参戦のノコモ・アクセル(Front Row Racing&Co)が浮上してくる。上位3台はそれぞれ単独走行となり周回を消化すると、そのままの順位でフィニッシュ。坂野が開幕2連勝を達成した。

優勝ドライバー:坂野 太絃 (No.88 Peak Performer Racing)

「スタートが決まらなくて順位を落としてしまいましたが、ペースはあったので1台ずつ抜いていきました。連勝できて嬉しいです。」



Cadets Class

『第1戦:久田朱馬がGPR初優勝!』

カデットクラスには18台がエントリー。昨年のランキング上位がこぞってステップアップしたため、ほぼ新メンバーでのレースとなる。タイムトライアルでトップタイムをマークしたのは、先週のもてぎカートレースで2位に入っていた久田朱馬(ガレージ)。2番手には小林尚瑛(Ash)が続いた。

第1戦の決勝では、田中瀧夫(チームナガオ)が好スタートでトップに立ちレースを引っ張っていく。2番手に小林、3番手北村紳(KWS SPEED)、4番手に久田というオーダーで序盤が進んでいく。その集団の中で、するすると順位を上げていったのが久田。5周目の最終コーナーではトップに浮上する。その後方に迫ったのが、もてぎカートレースでも久田とバトルし競り勝っている阿部瑠緯(ミツサダPWG RACING)。10周目にはコンマ8秒差に迫り、さらにその差を縮めていく。それでも、波に乗っている久田は、最後の最後に踏ん張り阿部に逆転を許すことなくフィニッシュ。先週の雪辱を果たし、開幕戦優勝を飾った。

優勝ドライバー:久田 朱馬 (No.43 ガレージC)

「スタートで出遅れてしまったけど、焦らず落ち着いてじっくりと抜けたので良かったです。後ろから来ていたけど、大丈夫だと思っていました。」

『第2戦:北村紳が大混戦を制し優勝!』

第6戦のPPは2位に入った阿部。その阿部がスタートも決め、順当にトップでオープニングラップを終える。しかし、この静かな幕開けは大激戦への序章でしかなかった。2周目以降、久田、阿部、北村、今村颯星(HIGUCHI RACING TEAM)、田中たが入り乱れるようにポジションを入れ替えながら周回を重ねていく。誰も抜け出す決め手がなく、集団でのトップ争いのまま、レースは終盤戦へ。終盤に入っても順位の入替わりは激しさを増し、最終ラップには田中が先頭で突入。しかし、バックストレートエンドで逆転した北村が、その後は要所を抑え田中を封じ込めチェッカー。混戦を制して優勝を飾った。

優勝ドライバー:北村 紳 (No.25 KWS Speed)

「午前のレースはブレーキトラブルもあったので、それを直して臨みました。みんな速くて苦戦しましたが優勝できてうれしいです。次回以降も絶対優勝します。」



Shifter Class

『第1戦:井出七星翔が盤石の走りで優勝!』

10台が参加したシフタークラス。今季はOKクラスから若手ドライバーが転向するなど、フレッシュな顔ぶれも多い。また今大会には松田次生(NEXTBIRTH with HKC)も参戦し注目を集めた。

タイムトライアルでは、昨年優勝の実績も持っている井出七星翔(RSイディアぴいたあばん)がコースレコードを更新するトップタイムをマーク。2番手にOKから転向してきた伊藤聖七(Ash)、3番手に同じく転向組の中里龍昇(TONYKART RTJ)が続く。

第1戦決勝、スタート良く飛び出したのは、やはり井出。2番手に伊藤、3番手には松田が浮上する。井出と伊藤はほぼ等間隔で一定の間隔を保ったまま周回を重ねていく。ほぼ同じようなペースでの周回となり、伊藤も接近することができない。一方、3番手の松田には、昨年の鈴鹿大会で優勝している大木一輝(MOMOX KART RACING)が接近していき、9周目に逆転する。その後上位陣に順位の変動はなく、終始トップを守った井出が優勝。2位伊藤、3位大木と続いた。

優勝ドライバー:井出 七星翔 (RSイディアぴいたあばん)

「スタートで前に出られて、そのまま後ろを離れたので気持ちを整理して走ることができました。ペースは良くなかったけど落ち着いて走れました。」

『第2戦:伊藤との激闘を制し井出が2連勝!』

第2戦決勝のフロントローはPP井出、2nd伊藤と第1戦と同じ顔ぶれとなる。スタートではホールショットを奪った井出に都築、伊藤の後方4番グリッドからスタートした松田が2番手を奪う。しかしすぐに大木がそのポジションを奪い、井出、大木、松田、伊藤の順でオープニングラップを終える。4周目、2番手に上がった伊藤は、トップ井出との差を縮めていく。一時は1秒以上の差が開いていたが、徐々にその差を削っていくと、10周目過ぎには井出の背後に接近し、15周目に2コーナーでトップを奪う。しかし、すぐにバックストレートエンドの3コーナーで井出が逆転。その後は伊藤のプレッシャーをはねのけ、そのままチェッカーを迎え2連勝となった。2番手チェッカーの伊藤はカウルパネルティにより降格。2位には大木、3位に松田が入った。

優勝ドライバー:井出 七星翔 (RSイディアぴいたあばん)

「序盤頑張りが過ぎて途中からタイヤが終わっていました。何とか抑えられて良かったです。意地で抑えました。しんどかったです。」



Point Standings - OK

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - Junior

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - Cadets

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - Shifter

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - TEAM

Cadets

Pos.	Team	合計
1	KWS Speed	43
2	チームナガオ&丹羽レーシング	42
3	ガレージC	41
4	ミツサタ PWG RACING	35
5	RT WORLD	34
6	HIGUCHI RACING TEAM	33
7	LUCE MOTOR SPORTS	30
8	Ash	27
9	SCUDERIA SFIDA	25
-	AP SPEED	0
-	ハルナカートクラブ	0
-	AUTO-TEC-RACING	0
-	KF MOTORSPORT	0
-	Sigma Racing	0

Junior

Pos.	Team	合計
1	Peak Performer Racing	50
2	Vitec Racing	40
3	ERS with SACCESS	38
4	HIROTEX RACING with IMPUL	38
5	Front Row Racing & Co	36
6	AP SPEED	15
7	Sigma Racing	0
8	TAKAGI PLANNING	0
9	チームエッフェガーラ	0
10	ハルナカートクラブ	0

OK

Pos.	Team	合計
1	KF MOTORSPORT	50
2	TEAM EMATY	42
3	YAMAHA MOTOR Formula Blue	36
4	Drago CORSE	22
5	Racing Square GEN	15
6	GLEATEQ Motorsports	15
7	ミツサタ PWG RACING	14
8	HIROTEX RACING	13
-	K.SPEED WIN	0
-	RacingSquareGenWithTEAM風神	0
-	HRT	0

Shifter

Pos.	Team	合計
1	RSイディアぴいたあぼん	50
2	MOMOX KART RACING	42
3	NEXT BIRTH wis HKC	38
4	Ash	22
5	Tony Kart R.T.J.	18
6	MID competition	16
7	KP-BUZZ	16
-	LAM Racing	0
-	RS nakatsuchi	0

**NEXT ROUND »» MOBILITY RESORT MOTEGI
2025.06.14 (Sat) - 15 (Sun)**

MORE DETAIL »» <https://www.gpr-race.com/>

